

モスクワ大学講義「現代日本の経済社会 日本的経営の行方」

桜美林大学教授、北東アジア総合研究所所長

パベル先生の依頼により、失われた 20 年の日本の状態と、日本経済を牽引してきた日本企業の経営力（分かりやすく日本的経営とする）の行方を考える。

1. 自己紹介 鳥取県生まれ、早稲田大学法学部卒業、企業人生活を経て大学人へ。専門は中国アジアの企業動向、日中関係、北東アジア地域論。1988 年—1992 年、中国北京では電機情報機器の工場経営に参画。現在、モスクワでロシアの政治経済動向と日露関係を在外研究中。
2. 外から見た日本の良さを再認識する
 - 1) 自然四季の美しさ 四季のない国の方が多い、文化文学にも影響、俳句
 - 2) 人種や宗教の対立がない 何でも有るが激しく先鋭でない、寛容。
 - 3) 身分、階級、貧富の差が少ない 東京と沖縄の経済格差は約 2 倍
 - 4) 食材が豊富で水が安全に飲める 新鮮な魚、野菜、お水がうまい
3. 日本の高評価はバブルの崩壊で「失われた 20 年」に、存在感が急低下
 - 1) 日本の 5 大神話が崩壊。①安全、②土地、③銀行、④成長、⑤官僚優秀、一方、①地域社会、②学校、③家庭の崩壊以外に、国力、経済力、技術力、学力が低下。特に若者、学生（特に男性）の挑戦意欲の低下が著しい。
 - 2) 取り残された日本。経済大国の地位から安住し停滞。変革を怠った
 - ① GDP 比較（1995 年—2008 年）。日本は 0 倍、世界は 1, 5 倍。アジア 3, 2 倍。韓国 2, 1 倍、中国 6 倍、インド 3, 4 倍、アセアン 2.2 倍、
 - ② 一人あたりの GNP 1993 年 第 1 位 → 2006 年 第 18 位
 - ③ 国際競争力比較（スイス国際経済開発研究所）
1990 年度 第 1 位 → 2010 年度、27 位。中国（18 位）にも抜かれる。
 - ④ 世界大学ランク（2010 年タイムズ）100 位以内に 4 大学（東大、京大）。
 - ⑤ 日本イメージ低下；進歩が遅く地味、デザインがかっこ悪い
3. アジア勢に追撃される日本と日本企業の行方。果たして生き残れるのか。
 - 1) アジア、特に中国、韓国との連携の緊密化、これにロシアも追加。
 - 2) 外交力の強化。政治、経済、防衛、情報発信の強化。真の政治家。
 - 3) 経済経営面の比較優位の高度技術、研究の推進。産官学の協力体制。
 - 4) 国内の過当競争から国際競争力の強化へ、特に国際人材力の強化、
 - 5) 現地化の推進。現地の日線での商品開発が必要。企業再編が必要。
 - 6) 外国人材の積極活用と専門人材の育成と活用。留学生をもっと大事に。
4. 新しい日本的経営の発信が必要。日本的経営理念と儒教倫理（武士道）
日本的な良さでグローバルスタンダードを。パナソニックの「共存共栄」
トヨタの地域貢献の経営理念と 5S の精神、資生堂のおもてなしの精神。
日本的経営の本質→社員、取引先の長期コミット。グローバル化への対応。